

# 薪ストーブのある暮らしとその利用者の交流

平成27年度地域政策研究センター(地域提案型・前期)

課題名 : 滝沢市における木質バイオマスの活用と里山管理に関する研究  
研究代表者 : 総合政策学部 教授 渋谷晃太郎  
課題提案者 : 有限会社 D' STYLE 橋本大治  
研究メンバー : いわて森林インストラクター会、泉桂子(総合政策学部)  
キーワード : 木質バイオマス、薪ストーブ、森林



## ▼研究の背景

かつて薪炭林であった森林(里山)は、現在利用の低迷によりその森林蓄積が増大している。一方、里山管理の担い手は減少し、県内各地の里山管理は不十分である。

滝沢市は、人口増加傾向にある自治体で、7,555haの森林(森林率41%)を持っている。今日、薪ストーブの利用者は都市部でも増加し、その薪の調達が課題となっている。そこで、薪ストーブ利用者が薪を地域の里山から調達することにより、里山の適切な管理、および安価な薪調達が可能にするシステムを考察する。



事例1 吉里吉里国の薪生産現場



事例2 薪ストーブユーザー向け講演会・WS

## ▼研究の目的

- a. 滝沢市内の薪供給量の推定 : 優良な薪資源である広葉樹の面積および蓄積の概算
- b. 県内の先進的な薪生産者、薪ストーブ利用者のヒアリング : 薪の調達方法・その地域・薪価格・薪の流通単位・薪利用の利便性の向上に関する質疑
- c. 薪利用者が集う機会の提供 : 薪及び薪ストーブの普及拡大のため、薪ストーブ利用者を対象としたワークショップの開催

c. ワークショップ形式で薪ストーブ利用に当たって生ずるさまざまな課題、それに対してどのように対応しているのかといったテーマで議論した。初心者から熟達者まで多様な薪ストーブユーザーが一堂に会することによって、初心者からは近隣関係や温度コントロールなどの悩みが出され、熟練者がそれにアドバイスを行うなど盛り上がりを見せた。残念ながら、薪の供給問題まで深めることはできなかったが、こうした交流の場を継続的に行うことで、薪の利用が促進される可能性が示唆された。

2016年2月11日 @岩手県立大学アイーナキャンパス

## ▼研究の成果

- a. 理論的に、滝沢市の森林(民有林のみ)はおよそ56,760m<sup>3</sup>の木材を供給できる能力を持つ。滝沢市内22,000世帯で要する薪の量は概算で8万トンであり、計算上4割程度の需要が満たせるが、成長量すべてを薪とするのは非現実的である(下記③による試算)。
- b. ①薪利用の促進のためには「少しの不便さを楽しみ」にすることが必要(NPO法人吉里吉里国:大槌町吉里吉里)  
②薪ストーブがゲストとホストをつなぐ結節点になる。原発事故後、薪の直火調理や灰利用の楽しみが失われた(民宿フィールドノート:宮古市江繋)
- ③蓄熱タイプ薪ストーブを環境・利便性から推薦する(薪割りスト:花巻市大迫)

以上2015年9月7、8日聞き取り

【伐採可能面積】うち伐採可能で薪炭材に適するのは203ha(1割弱)

【伐採可能材積】森林の年間成長量10m<sup>3</sup>/haと仮定しても約56,000m<sup>3</sup>  
ただしこの数字は左記のような法的伐採禁止区域を考慮していない

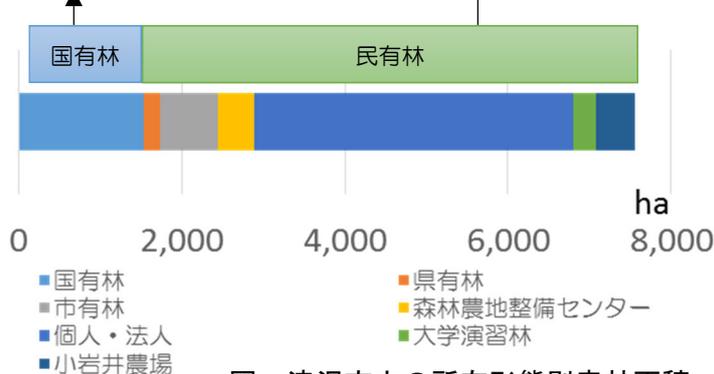


図 滝沢市内の所有形態別森林面積